

宗谷

宗谷教職員組合

【宗谷情報】No.16 平成24年12月15日発行
発行責任者：八木 博

〒097-0004 稚内市緑2丁目4-21 宗谷教育会館
Tel 0162-22-2480 FAX 0162-22-2484
web: http://www.soya-teachers.org Mail: info@soya-teachers.org



2学期最後の
分会会議
討議資料

管内研に集ったあの日から一か月 つとてい学び合った経験語り合おう♡

十一月十七日に稚内で「宗谷管内教育研究大会」が行われました。管内から六〇〇名近くの先生方が稚内に結集しました。教職経験が十年未満の先生にとっては「管内の先生が一堂に会する機会」そのものが初めての経験です。だからこそ、管内挙げて集い学び合った経験を語り合い、宗谷の財産として残していこうという呼びかけです。ぜひ、一学期最後の分会会議での語り合いをお願いします。

そもそも、管内研とは？

数年前から「まちの学校が小・中、あとは併置校ですべて」という町が宗谷の中で生まれはじめました。教育研究の視点でも「町研サークルで学びたい要求とサークル開設の現実が合わない」という声をよく聞くようになりまし。浜頓別や中頓別では町研の合同開催をするなど工夫も見られます。管内各地で「同じ教科の先生、同じ悩みを持った先生が集まり学び合う」という要求の実現のために様々な総意工夫がされているところでしょう。

管内教育研究連携会議は管内研開催の呼びかけとして、次のような学びの場づくりを呼びかけています。

・学校研究の充実、教師力の向

上をめざし、管内規模の交流、研究の場を

・教科研究の充実、課題別研究の充実をめざし、管内的な学び合いを

・管内すべての教職員、教育関係者の総意と力合わせて課題の解決を

このような呼びかけをもとにして、宗谷管内教育研究大会実行委員会と稚内市教育研究会・宗谷管内複式教育連盟が助け合い開催されたのが、あの「管内研」なのです。

「参加して…」 「こんなことを学べた」 集った実感を語り合おう

早いもので、管内研のあの日から一か月が過ぎようとしています。各学校では、学期末の業務のまったたなか。忙しい日々を過ごされていることと、思います。ただ、そんな中でも、

六〇〇名の先生が集まった、そして自分もそこに居て学んだということが大切です。各学校で、研修や職員会議などの場で管内研について語り合われている姿があれば、素敵なことだと思います。

そして、組合としてもこの「管内研」を経験した私たちが語り合い財産を残すことを呼びかけます。

宗谷教組は「管内研」の構成

宗谷教組として…

宗谷教組は「管内研」の構成

びかけます。宗谷教組が春に取り組んでいる「春の学校づくりの要求書」でも「楽しくてわかる授業づくり」を行うための方策を組合員だけでなく、各学校の校長先生とも確かめ合っています。そんな「楽しくてわかる授業づくり」を進める主体者である私たちが、それぞれの分会として「学び合った経験、学び合う意義」を語り合いたいと思っております。

『参加して〇〇がよかった』
『こんなことから学べた』
『管内から集まることに、〇〇という意義を感じた』
などなど、分会会議で語り合うことを大切にしましょう。

団体ではありませんが、「管内共同の広場を求めよう」立場です。そのうえで、宗谷の教育関係者として「宗谷の教育連携、宗谷の教育研究」の歴史に新たな一ページとして刻まれた管内研を振り返る意義はあると考えています。集うことで、教育連携の価値を実感できました。それが、新しい宗谷の教育づくりのスタートになることでしょう。

宗谷教組としても、春から「日常的な学び愛」の必要性を呼びかけてきました。わっかない支部フェスタ、枝幸支部学習会など、支部独自の取り組みも生まれています。だからこそ、「集い学び合う意義」を二学期の終わりに語り合います。

賃金確定交渉を受けて…

交渉結果に対する想い、日々の多忙… ミニ・オレンジカードで道教育長に届けよう！

11月21日、午前2時から道教組・高教組は、賃金確定交渉を行い、道教委から中間の回答を得ました。すでに回答は当日の「勤務時間外職場集会」で交流されていることと思います。国家公務員退職手当削減に追隨する道公務員の退職手当引き下げ、査定昇給制度の推進など今後、継続交渉となる重要な事柄ばかりです。また、来年度からの給与の独自削減についても撤廃を求めています。継続交渉になっています。

11月に取り組んだ「オレンジカード」への寄せ書きは道教育長へ手渡されました。重要な現場の声となっています。

賃金確定交渉は、1月以降、最終段階へと入ります。今回も「ミニ・オレンジカード」に取り組めます。ぜひ、11月交渉結果への意見、日常的に感じている想いを綴ってください。一人ひとりの声が力になります。

読み物

「楽しくてわかる授業づくり」を

進めるために私たちができることは？

全国学力・学習状況調査が私たちに問いかけること

楽しくてわかる授業づくりとは

毎年春に「学校づくりの要求書」の提出に取り組みます。各分会では、分会長・分会執行部の先生を中心に校長先生と学校づくりについて対話しています。その中には、「学校づくりの五つの重点課題・要求事項」があり、特に二つの項で「楽しくてわかる授業づくり」について高まり合うために組合と学校が努力しあうことを確かめています。

学びたいという要求がたくさん

秋の「学校づくりと人事アンケート」から

「学校づくりと人事」を進めるにあたり、秋にアンケートを行いました。その中に「学び合いたい、学ぶ場が欲しい」という声がたくさん綴られました。「多忙感」に襲われ毎日が飛ぶように過ぎていく日々の中、『授業を上手にできるようにになりたい』『学級づくりについて語り合って学びたい』という声が埋もれてしまっているのではないかと気づかされるアンケートになりました。

こうした要求にどう応えていくか。宗谷教組として考えていかなければならぬ重要な課題です。

学び愛フエスタだけが

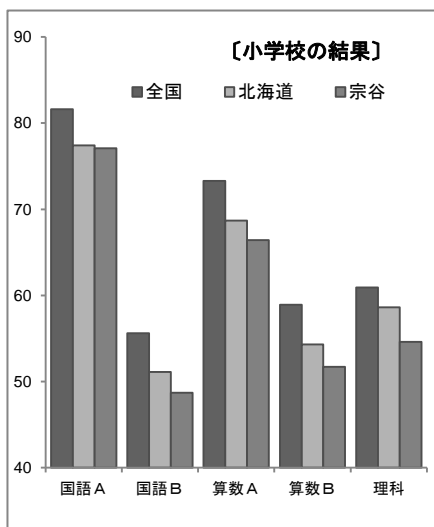
学びの場ではないはず

毎年5月に「学び愛フエスタ」は、管内的な学びの場として、新年度・新学期の豊かな学びの場になっています。フエスタは、年に一度の大きな学びの場は意義があるものとして歴史あるものになっています。ただ、学び愛フエスタが発した約二十年前には、分会を単位とした日常的な学び愛があつたと聞きます。もう少し歴史をさかのぼると「教育講座運動」というのもありました。

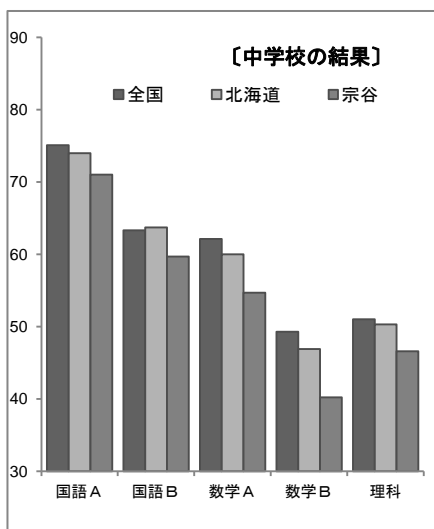
授業づくりが上手になる

どうすれば…

宗谷の教育研究の歴史は、それぞれの学校の「学校研究」を基礎とすることに



全国学力・学習状況調査の平均正答率 (単位: %)



宗谷教組本部にいて、二期の印象的だったことは「合同教研」です。初めて合同教研に参加した鴛泊小学校事務職員・相田先生は、支部情報「島を愛す」に次のような感想を寄せています。
他の学校ではなかなか子どもと向き合い、職員間で共有するといった時間もとれず、また保護者や地域とも信頼関係が築けていないところも多いようです。さらに評価社会の広がりによって学校自体が評価を気にし、失敗を恐れ、それだけに目を向けているといったところもあると聞きました。
そのようなかで鴛小は頻りに子どもについての交流を行っていますし（しかもやらなきゃと思っているのではなく自然と）、研修にも力を入れています。また地域の方々の関わりも深く、地域に根ざした学校づくりが比較的出来ていると感じます。そういったことが実はとてもすごいことなのだ、今回学んできたことを通して実感できました。(一部抜粋)
今年度、初任者として利尻富士町に赴任した相田先生が、豊かな視点で語ってくれたことはとても頼もしいことです。さらに、札幌の合同教研に参加することによって、自身の学校での日常を再確認している様子にもうれしく思います。合同教研で札幌へ行くことの大きな意義がここにあります。
▼さあ、冬休みに入ります。研修や3学期の準備に取り組める時間、2学期の疲れを癒す時間、日常ではなかなかできないリフレッシュなど有意義な時間を過ごしたいですね。宗谷の厳しい冬はこれからですが、健康・交通安全に気を付けつつ、みなさまにとって素敵な冬になりますように♥(natty)

宗谷の四季